

11歳（小学6年生）

【体力の状況】

注目1 握力は緩やかに向上傾向にあり、全国水準をわずかに上回っています。

注目2 50m走はわずかに全国水準を下回っています。

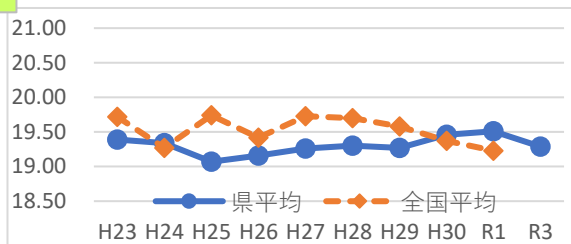
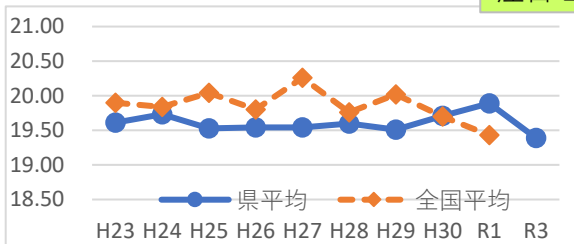
注目3 ボール投げは全国水準とほぼ同様ですが、低下傾向が続いています。

過去10年間の調査結果の推移グラフ

【男子】 ①握力

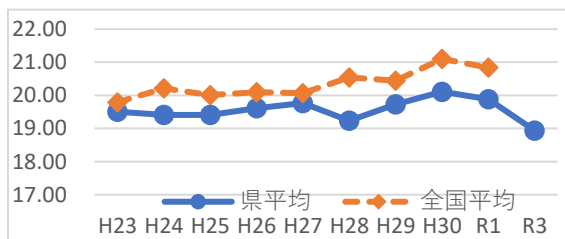
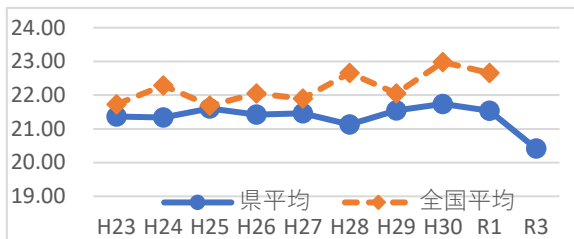
注目1

【女子】 ①握力



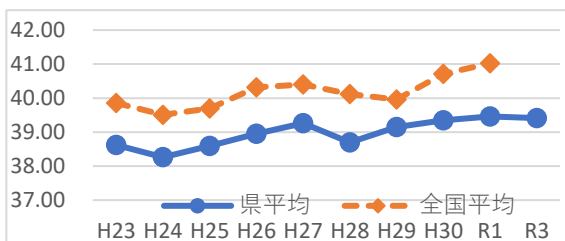
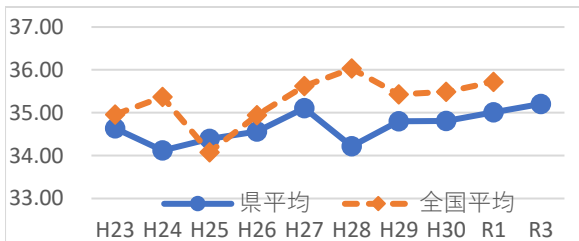
②上体起こし

②上体起こし



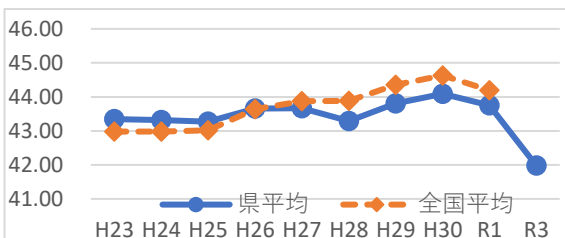
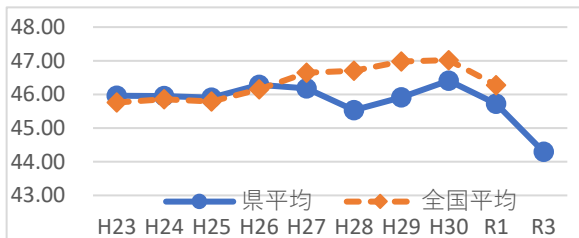
③長座体前屈

③長座体前屈



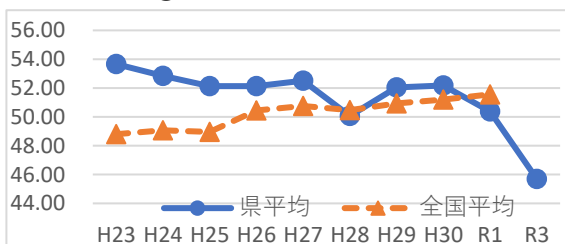
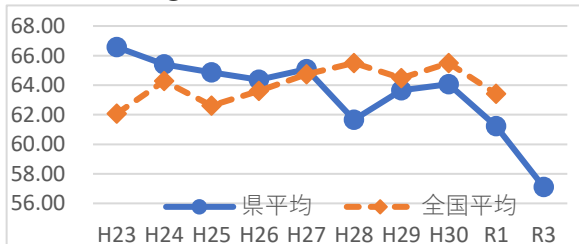
④反復横跳び

④反復横跳び



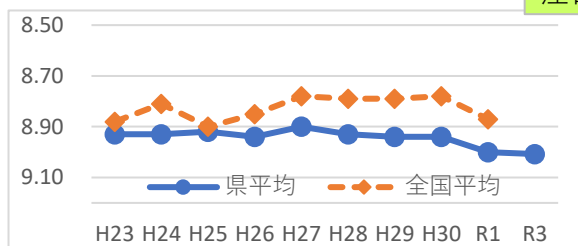
⑤20mシャトルラン

⑤20mシャトルラン

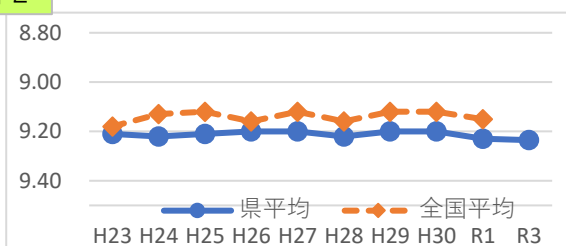


⑥ 50m走

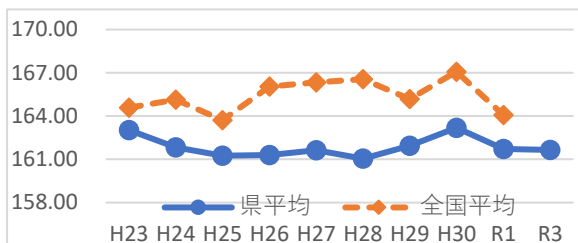
注目2



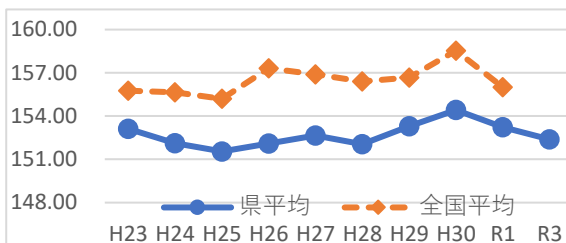
⑥ 50m走



⑦ 立ち幅跳び

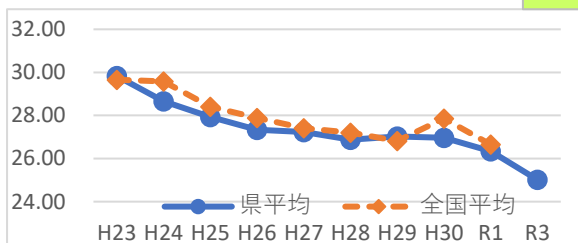


⑦ 立ち幅跳び

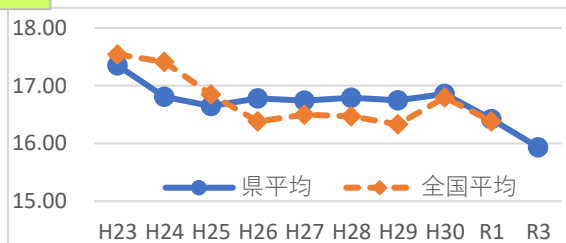


⑧ ボール投げ

注目3

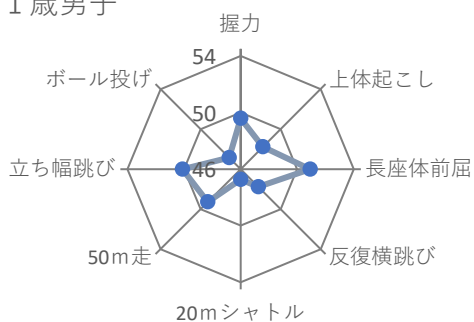


⑧ ボール投げ

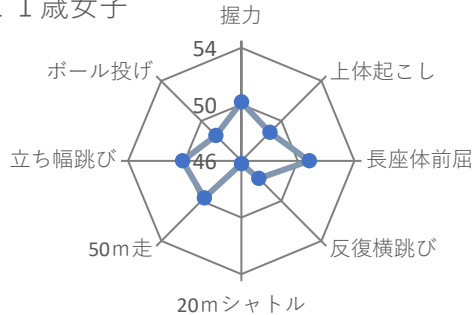


県基準値を50としたときの本年度の平均値のTスコアによるレーダーチャート

11歳男子



11歳女子



【指導上のポイント】

高学年の児童は、自分のことも客観的に捉えられるようになるとともに、知的な活動も活発になってきます。一方で、身体も大きく成長し、自己肯定感をもち始めたり、逆に劣等感をもちたりもします。集団活動では、ルールや役割を大切にしてい、みんなのまとまりをつくることのできるようにもなります。このような児童の発達の段階に応じて、次の点に配慮した指導が大切になります。

- ①進んで考え活動を工夫してこれらを広げたり深めたりすること
- ②各種の基本的な技能をしっかりと身に付け、失敗しても何回でも取り組みたいとかやり続けたいと思ったりする、運動に対する自己肯定感を育てること
- ③自己の最善を尽くして運動をする態度を育てること

